

紋別市

平成18年

10大ニュース



2007年



2006年

姉

妹都市相互訪問交流事業 ニューポート市40周年、コルサコフ市15周年

5月に親善訪問団23名がニューポート市を訪問。姉妹都市委員会が主催した記念レセプションでは、ペイン市長と宮川市長による姉妹都市提携40周年宣言書の調印式がおこなわれました。7月には、ニューポート市より7名、コルサコフ市より3名の親善訪問団が港祭り期間に合わせて来紋し、レセプションや植樹などの記念行事に参加しました。9月には、親善訪問団5名がコルサコフ市を訪問。建都153周年記念行事に参加し、姉妹都市提携15周年を互いに祝いました。姉妹都市相互交流事業を通して、両市との今後さらなる交流を誓い合いました。



21 人の議員が誕生 新人6人全員当選

7月に任期満了に伴う市議会議員選挙が行われ、定数21人に対し、24人が立候補する激戦の選挙の末、6人の新人候補者全員が当選、現職3人が落選する結果となりました。投票率は、前回の市議会議員選挙より4.72%上がり、80.01%でした。



交 流拡大事業着々と 城西大学男子駅伝部合宿、移住者の会発足

スポーツ合宿や紋別市への移住者の誘致などを中心とする「交流拡大プロジェクト事業」により、全日本男女のハンドボール、城西大学男子駅伝部(60人)、拓殖大学男子駅伝部等が紋別で合宿を行いました。また、紋別市に移住してきた方々で作る「移住者の会」が発足し、これから紋別市に移住を考えている人々への情報提供など市民レベルの誘致活動を実施することになりました。



北 高校舎での最後の 入学式

4月に普通科155人、商業科40人が北高校舎で最後の入学式が行われました。新年度からは、高校名を「北海道紋別高等学校」として、南高校の校舎で開校されることとなります。普通科4学級、総合ビジネス科1学級、電子機械科1学級で、定員は240人でスタートします。北高、南高のそれぞれの伝統を受け継いだ普通科、商業科、工業科の3つの大学科の構成学級となり、全道的に例をみない組み合わせの学校となります。



新

しい総合計画策定 スタート

平成21年度からスタートする第5次総合計画の策定に向け、審議会が9月に発足し、11月からは市内や近隣町村へアンケート調査を実施したほか、市内各地域で「市民の声を聴く会」が開催されました。各地域には、市の部長職、企画調整課の職員がおもむき、懇談会の中では、市民から医療やごみ処理、風水害、行政に対する不満などたくさんの意見がよせられました。



台

風並みの低気圧が 紋別を襲う

10月7日から9日にかけて道東沖で発達した低気圧が停滞し、台風並みの大嵐が紋別地方を襲いました。市内には、暴風・波浪・大雨・洪水・高潮などの警報が相次いで出され渚滑川、藻別川で河川氾濫の恐れが出たため、河川流域の住民に避難勧告が出されました。低気圧が去った後、第3防波堤クリオネプロムナードの上部階段などのブロックが大きく破損し、瓦礫のやまになった他、サケの定置網の破損など被害をもたらした大きな爪あとを残しました。



市

内商店街の大型店 閉店続く

10月に市内商店街のキャデン紋別店が営業不振により紋別から撤退。11月にはAコープオホーツクはまなす店が閉店となり、商店街は相次いだ大型店の閉店により、大きな痛手を受けています。このような中、市は中心市街地の活性化を図るため、まちなかに民間活力を生かした公的賃貸住宅の整備に取り組み、人の流れを中心市街地に向ける事業に着手しました。



津

波警報発令 市内に緊張走る

11月15日20時15分頃、千島列島択捉島の東北東390キロ付近でマグニチュード8.1の地震が発生。オホーツク沿岸、太平洋沿岸に津波警報が発令されました。紋別市でも、災害対策本部が設置、海岸住民に避難勧告が出されました。

また、200隻を超える漁船は港内での衝突を避けるため沖合いで待機、市の広報車、消防車、パトカー等が港湾や沿岸地域をまわり、避難を呼びかけました。紋別市では、津波による避難勧告は過去に例がなく市内全域に緊張が走りました。しかし、最大40センチの津波を観測しましたが、被害はなく市民は、安堵の表情をうかべました。



大

型の企業誘致 決まる!

11月、紋別市及び農業関係者が強く要望していましたよつ葉乳業北見工場内に生クリーム工場の建設が決定しました。生クリームを主体に濃縮乳、脱脂粉乳、バターなどを処理する施設で、約37億5千万円の総事業費が見込まれています。雇用の場の拡大、地域経済の活性化、地域農業の経営の安定化など市内に与える影響は大きくなると期待されています。

